

きよすじょうかまち
清洲城下町遺跡(本発掘調査B)

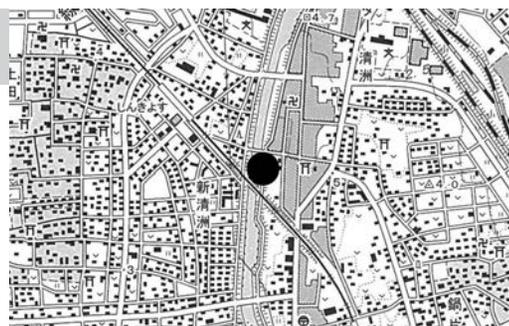
所在地 清須市清洲地内
(北緯35度12分36秒 東経136度50分19秒)

調査理由 総合治水対策特定河川事業船枳橋施工

調査期間 平成30年6月～平成30年10月

調査面積 1,280㎡

担当者 酒井俊彦・蔭山誠一



調査地点(1/2.5万「清洲」)

調査の経過 今年度の調査は、平成29年度から続く五条川に関わる総合治水対策特定河川事業船枳橋施工事業にともなう事前調査として、愛知県建設部河川課尾張建設事務所より愛知県教育委員会を通じて、愛知県埋蔵文化財センターが委託を受け、平成30年6月～10月に調査を実施した。調査区は五条川河川敷の左岸で名鉄名古屋本線北側にあり、船枳橋橋脚の南北の範囲(1,280㎡)で、北から18B区、18D区、18F区、18E区、18A区、18C区として調査した。

立地と環境 清洲城下町遺跡は五条川中流域に形成された自然堤防と後背湿地上に立地する古代から近世にかけての複合遺跡である。遺跡の中央には、名古屋方面の南南東から北北西にのびる美濃街道がはしっており、美濃街道と五条川が交差する北側に清洲城の本丸が想定されている。

調査の概要 今回の調査では、戦国時代から江戸時代にかけての主に2時期の遺構と出土遺物が確認できた。



調査区遠景(北東より)

(1) 戦国時代～江戸時代前期

井戸7基、溝35条、土坑40基、自然流路1条を確認することができた。検出された遺構は、複数で重複しており、一時期に存在する遺構数は少ない。

井戸(SE)は調査した範囲の東側に沿って南北に並んでみられ、18A区と18C区にみられる4基の井戸は、7mから10mの間隔で確認された。井戸の構造物は結桶が確認されるものがあり、18A区035SEと18F区083SEでは、結桶の木材が残っていた。

溝(SD)は、南北方向がN-10°-E前後、東西方向でN-80°-W前後の軸線をもって掘削されており、複数が重複している。したがって2条の溝がほぼ並行して検出されても、屈曲した位置では重複する場合が多く、道路遺構に伴う側溝としては確認できなかった。溝の幅は、約0.3m(18F区071SD)から約7m(18D区017SD)までの規模の違いがあり、規模に応じた区画の違いも推定される。また18F区077SDでは、溝と重複する位置で5ヶ所の柱穴と考えられる小土坑が確認できており(092SK、095SP～097SP、東壁断面において1基)、掘立柱建物の桁側柱穴列か柵の柱穴列の可能性はある。

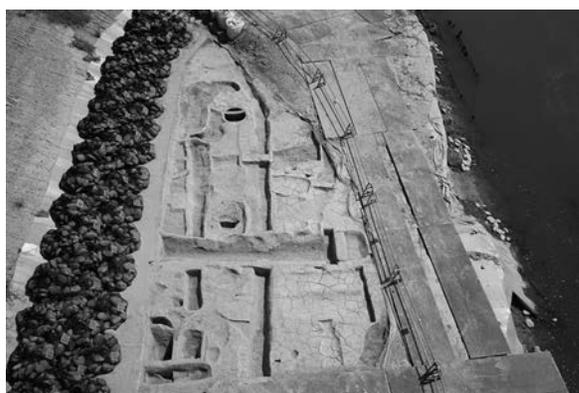
土坑(SK・SX)では、18D区017SDに重複する位置に貝殻と炭化物が入る土坑052SX、18F区091SDに重複する土坑073SKと075SK、18F区091SDに重複する090SK・093SKは長径1m前後の土坑で、戦国時代末の陶磁器が出土した。他に18F区087SX、18E区061SK、18A区037SKは、長径5m前後の大型の土坑であるが、出土遺物は少なかった。

出土遺物には、瀬戸・美濃窯産陶器の灰釉や鉄釉の壺・瓶類、天目茶碗、長石釉・灰釉の皿、播鉢、磁器小皿と碗、土師器の鍋と皿、瓦などがあり、18E区060SDからは一括廃棄された陶磁器や土師器の鍋などが出土した。また18D区017SDと18A区041SDからは、陶磁器や土師器とともに、獣骨片や漆碗、曲物などが出土した。

(2) 江戸時代末～近代

旧五条川の流路を埋めたものと考えられる016SXを確認した。016SXは現在の五条川東護岸の東に埋没していた旧東護岸の石積みの上にあり、18B区南西隅部から18D区西端部、18F区西端部にかけての範囲に検出できた。出土遺物は、江戸時代末から近代にかけての陶磁器、瓦、ガラス瓶などが多く出土した。

ま と め 清洲城下町遺跡は、これまでに多くの発掘調査が行われ、江戸時代の古城絵図などを参考に戦国時代のおおよその姿が復元されている。今回の調査地点は16世紀末～17世紀初頭における清洲城下町遺跡の中で、中堀と外堀の間にある町家推定域に当たる地点である。その一部を確認できたのみではあるが、戦国時代末から江戸時代前期にかけて営まれた区画溝や井戸、土坑を多数確認することができ、多くの遺構変遷が推定できた。(蔭山誠一)



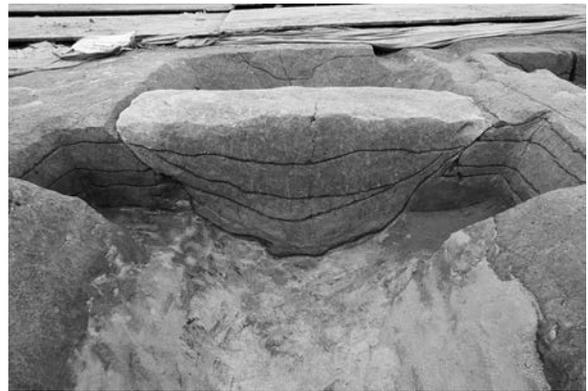
18A区全景(北より)



18A区全景(北東より)



18A区北側遺構全景(東より)



18A区001SD断面(東より)



18A区035SE桶検出状況(北より)



18B区全景(西より)



18B区015SD(北より)



18B区022SE(北より)



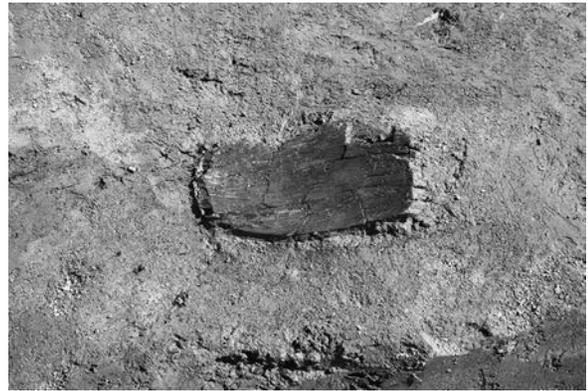
18C区全景(北より)



18C区040SD・041SD(北東より)



18C区041SD出土曲物(南より)



18C区041SD出土漆製品(西より)



18C区041SD出土土師器皿(西より)



18D区全景(北より)



18D区全景(東より)



18区017SD(東より)



18D区052SX掘削状況(東より)



18D区017SD出土 獣骨(北より)



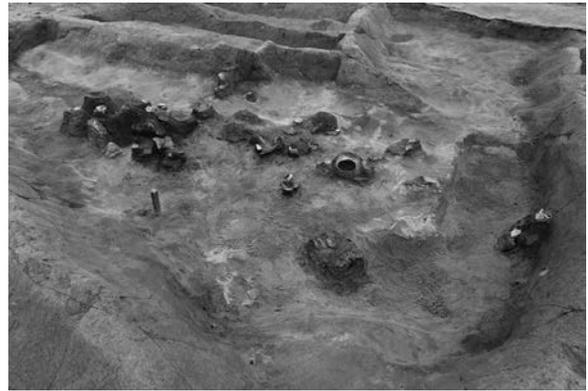
18E区全景 (北より)



18E区全景 (東より)



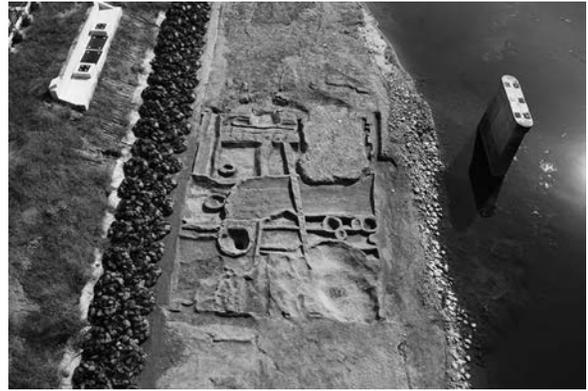
18E区061SK・063SD (北より)



18E区060SD 遺物出土状況 (南西より)



18E区032SD・064SD (南より)



18F区全景 (北より)



18F区全景 (東より)



18F区柱穴列 (西より)
写真手前より078SD内の095SP・096SP・097SP・092SK